

# 令和4年度事業報告書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

学校法人 上宮学園

上宮高等学校  
上宮学園中学校  
上宮太子高等学校

# 学校法人 上宮学園

## I.法人の概要

### 1.建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか130年であるが、その130年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ、巣立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようだが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよして、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものだ。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して 勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を發揮するという意味である。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を 多くの若者に分け与えて、130年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

## 2.法人の沿革

上宮高等学校は、明治23年（1890）浄土宗を母胎として創立された。以来130年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

明治23年（1890年）大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く

明治34年（1901年）学制変更により修業年限4年を5年に変更

明治39年（1906年）中学校と同等の認定

明治45年（1912年）財団法人上宮中学校設立許可

昭和4年（1929年）鉄筋本館竣工

昭和10年（1935年）定員1250名認可 鉄筋新校舎の建設案成る

昭和14年（1939年）新校舎（現2・3・4号館）竣工

昭和22年（1947年）新制上宮中学校発足

昭和23年（1948年）新制上宮高等学校発足

昭和26年（1951年）学校法人上宮学園へ組織変更認可

昭和36年（1961年）校祖750年遠忌式

昭和38年（1963年）高等学校志願者5259名に達す 5号館竣工

昭和42年（1967年）中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工

昭和44年（1969年）太子町校舎高1授業開始

昭和49年（1974年）高2 2コース制実施

昭和54年（1979年）太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式

昭和56年（1981年）総合体育館竣工式 90周年記念式

昭和59年（1984年）上宮高等学校6号館竣工

昭和60年（1985年）上宮中学校復活開校（於、太子町）

上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工

昭和63年（1988年）上宮高等学校太子町学舎開設

平成1年（1989年）上宮高等学校太子町学舎校舎竣工

平成2年（1990年）創立100周年記念式典

平成3年（1991年）上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立

平成5年（1993年）上宮中学校が上宮太子中学校へ変更

上宮中学校開校（於、天王寺）

上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝

平成22年（2010年）上宮学園創立120周年記念式典

平成23年（2011年）校祖800年大遠忌

上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化

平成24年（2012年）上宮太子高等学校男女共学化

平成26年（2014年）上宮高等学校3年 平岡卓

冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典

平成30年（2018年）上宮中学校と上宮太子中学校が合併し、上宮学園中学校へ校名変更

令和元年（2019年）南グラウンドに新校舎竣工 上宮学園中学校と上宮高等学校 新校舎へ移転

令和2年（2020年）旧校舎解体 グラウンド竣工

令和4年（2022年）上宮学園中学校2年 平林花香 夏季デフリンピック水泳入賞

### 3. 設置学校（所在地・コース等）

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町9番36号

全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053

全日制 特進I類(国公立大学)コース、特進II類(難関私立大学)コース、総合進学(有名私立大学)コース

iii 上宮学園中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町9番36号

特進コース・Gコース

### 4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m <sup>2</sup>	校舎面積 m <sup>2</sup>
上宮学園中学校・上宮高等学校	25,557	25,503
上宮太子高等学校	39,504	24,176
合 計	65,061	49,679

### 5. 入学定員

名 称	学則定員（各3学年合計）
上宮高等学校	2,280
上宮太子高等学校	840
上宮学園中学校	360
合 計	3,480

### 6. 生徒数・学級数（令和4年5月1日現在）

名 称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1年	614	16
	2年	662	18
	3年	629	18
上宮太子高等学校	1年	197	6
	2年	154	4
	3年	179	5
上宮学園中学校	1年	107	3
	2年	107	3
	3年	109	3
合計		2,758	76

7. 役員・評議員（令和4年4月1日現在）

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事7名（うち、理事長1名、理事6名）監事2名  
 理事長 田中裕史（上宮学園長）  
 理事 水谷善仁（上宮学園中学校・上宮高等学校長）  
 寺澤久弥（上宮太子高等学校長）  
 甲斐龍二（上宮学園法人事務局長）  
 井桁雄弘（総本山知恩院責任役員 執事長）  
 川中光教（浄土宗代表役員 宗務総長）  
 山北光彦（浄土宗大阪教区長）  
 監事 木田眞敏・毛利虎之助

ii 評議員（定員15名 うち、理事兼任7名）

殿井鉄夫（法人職員）  
 松井保（法人職員）  
 原田和成（法人職員）  
 横倉廉幸（卒業生）  
 神田眞晃（卒業生）  
 田中裕史（上宮学園長）  
 水谷善仁（上宮学園中学校・上宮高等学校長）  
 寺澤久弥（上宮太子高等学校長）  
 甲斐龍二（上宮学園法人事務局長）  
 川中光教（浄土宗代表役員 宗務総長）  
 山北光彦（浄土宗大阪教区長）  
 鈴木伯隆（浄土宗僧侶）  
 井桁雄弘（学識経験者）  
 水谷川源昇（学識経験者）  
 淵昭嘉（学識経験者）

8. 教職員（令和4年5月1日現在）

教職員数	教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高等学校	87	6	58	26	177
上宮学園中学校	21	2	8	2	33
上宮太子高等学校	30	3	26	8	67
合計	138	11	92	36	277

## II.事業の概要

浄土宗を母体とする本学園は、法然上人の仏教精神を教育の根底において、知育・徳育・体育のバランスのとれた全人教育をおこない、慈悲の精神を育てることを目標とする。

校訓「正思明行」の基、人間としてのあるべき生き方と真理を探究する正しい心の眼と思いを持ち、理想を求めて主体的に行動できる生徒を育成するために、教授法の改善を推進し、より質の高い教育の実践をはかる。

令和元年度に新校舎が完成し、新たな教育環境の整備を進める。

保護者会、同窓会及び、教育振興協力会の支援・協力による ICT 環境の整備、リモート授業を活用してのコロナ対応、デジタル採点等の業務の合理化などの取り組みを実施する。

今後に向けても、その長い歴史にとらわれることなく、時代に応じた改革を遂行し、更なる精進努力を続けるとともに、社会貢献できる人づくりを目指す次第である。

### 1.法人

令和4年度 第1回理事会・評議員会

日時 令和4年5月25日(水)

会場 評議員会：多目的室 理事会：本校応接1

議案第1号 令和3年度事業報告について

議案第2号 令和3年度決算(案)について

議案第3号 令和4年度予算(案)について

議案第4号 令和4年度特待生について

令和4年度 第2回理事会・評議員会

日時 令和4年12月14日(水)

会場 評議員会：多目的室 理事会：本校応接1

議案第1号 校内役員人事について

議案第2号 令和4年度中間報告(財務面・教務面)について

議案第3号 その他について

令和4年度 第3回理事会・評議員会

議案日時 令和5年3月30日(木)

会場 評議員会：多目的室 理事会：本校応接1

議案第1号 役員・評議員補充について

議案第2号 令和4年度補正予算案について

議案第3号 令和5年度事業計画について

議案第4号 令和5年度当初予算案について

議案第5号 その他について

## 財務部管財係

本年度は、南キャンパス保守管理、北キャンパス残存校舎の維持確保、既存校舎の省エネルギー化を中心に補修工事を実施致した。

また、太子高等学校校舎の維持、体育館補修・クラブ棟の解体等の補修・改修工事を実施致した。

1－総合体育館未改修部分照明LED化工事	8,745,000 円
2－北キャンパス高圧引込ケーブル更新及び高圧気中開閉器設置	5,489,000 円
3－総合体育館南側屋外体育倉庫改修工事	1,582,900 円
4－太子高等学校校舎外装タイル補修2期工事 (3期工事予定1部追加)	18,150,000 円
5－太子クラブ棟解体及び特別教室棟改修工事	23,164,900 円
6－太子体育館屋根及び外壁補修工事	79,750,000 円

---

合計金額	136,881,800 円
------	---------------

## 2.上宮高等学校

### i.執行部関係

【上宮学園中学校共】(令和4年度)

校 長	水谷 善仁	中学教務部長	橋本 宗隆
副 校 長	殿井 鉄夫	生活指導部長	伊地田龍也
高 校 教 頭	金安 克之	進路指導部長	三吉 宏和
中 学 教 頭	西岡 信敬	入試対策部長	細川 貴司
高校教務部長	西側 博基		

### 【基礎データ】

生徒数(年初数)

1年生 614名、16クラス、クラス平均生徒数38.4名

2年生 662名、18クラス、クラス平均生徒数36.8名

3年生 629名、18クラス、クラス平均生徒数34.9名

合計1,905名、52クラス、男子1,239名、女子666名、比65:35

転退学者等

1年生 退学者12名(男子8名、女子4名)、うち転学者9名(男子5名、女子4名)

2年生 退学者13名(男子10名、女子3名)、うち転学者10名(男子8名、女子2名)

3年生 退学者4名(男子4名、女子0名)、うち転学者3名(男子3名、女子0名)

除籍者1名

合計 退学者27名(男子21名、女子6名)、うち転学者22名(男子16名、女子6名)

昨年度比 -25名(0.46倍)、全生徒数に対する割合は1.4%(過去の全国平均1.5%)

教員数

合計141名

専任教諭69名、常勤教諭18名、常勤講師6名、非常勤講師58名

定年退職者 田中裕史、殿井鉄夫、石井俊之、伊藤隆、杉本智也、田中宏、畑中広、  
仲谷達幸、西脇圭二、堀場啓方

#### 【教務関係】

新型コロナウイルス感染症による蔓延防止等措置、緊急事態宣言を受け、厳しい制約を受けながらも対面授業を継続したが、行事については体育大会、及び文化祭は制限を加えての開催となった。新校舎での授業等では、プロジェクターを使った授業風景が普通となり、先生方が手に iPad 等を持って授業に向かう姿を多く見かけるようになった。プロジェクターの使用方法も多数存在し、先生方がその力量と授業形態及び教科の特色に応じて、使い分けることが出来るシステムであったことも幸いし、ICT化が順調に進捗し、生徒の方も遺憾なく受け入れているように思える。

#### 【新型コロナウイルス感染症関連】

新型コロナウイルスの感染状況は、世間の感染者の増減と同じ動きを見せながら推移し、感染した学校関係者は、最終的に今年度の感染者の合計は、生徒 505 名、教職員 31 名となった。学級閉鎖・学年閉鎖を実施したこともあったが、全校を休校にすることなく、乗り切っている。感染者はいずれも重症化することなく、復帰を果たしている。

#### 【修学旅行】

昨年度は、12月に長崎・福岡への3泊4日の日程で実施し、631名が参加した。天候に恵まれ、自然や文化に触れる修学旅行となった。長崎市内の自主研修・ハウステンボス内での自由散策等、生徒の満足度は高かったと思われる。新型コロナウイルス感染症対策も考え得ることは実施し、結果的に大過なく実施することができた。

#### 【語学研修等】

今年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、以下の海外等における語学研修等は実施できなかったが、オンライン英会話のみ前後期延べ65名の参加者があった。

8月 カナダ語学研修・フィリピンセブ島語学研修・イギリス語学研修  
3月 グローバルコミュニケーション京都

ii. 広報関係 ※志願者数には欠試者も含まれます。

#### ① \* 2023年度入試結果

志願者数 1,900名、受験者数 1,872名

合格者数 1,825名（専願 366名・併願 1,459名）

入学者数 664名（内部生含む）

#### \* 2022年度入試結果

志願者数 1,867名、受験者数 1,833名（欠試者 34名）

合格者数 1,743名（専願 378名・併願 1,365名）

入学者数 613名（内部生含む）



## ②学校説明会

入学希望者を対象に9月から12月にかけて、月に一度、計4回の説明会を実施している。ここ3年はコロナ禍のため各回定員制にしている。今年は1,300名で実施。どの回も約600組の参加があった全体の参加者組数は、2,273組から2,517組に増加した。

### ○今後について

- ・生徒が前面に出るような説明会も考えていっても良いのではないか。
- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないか。
- ・各回申し込み開始からすぐに定員になり、申し込めないという苦情がたくさん見られたので定員制を撤廃してみるのも良いのではないか。

## ③塾対象説明会

本年から学校において実施した。コロナ禍のため昨年度同様1塾1名の制限を設けた。実施時期も実際に塾の先生方が、進路指導を始める9月（夏休み後の五ツ木模試・駿々堂模試の結果が出る）に実施。参加塾数は、202塾であった（前年度は162塾）。

学校実施は校舎を見ることができ大変好評であった。

次年度以降もこの時期で良いのではないかと思われる。

### ○今後について

- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないか。
- ・レジュメの字が小さい、メモを取るのに机や台がない等の要望が出ている。取り入れることができることから取り入れていきたい。

## ④私学展

毎年多数の来場者が見込まれる中で、上宮学園中学校・高等学校のブースを訪れる人数は共学になって増加の一途をたどっている（特に高等学校）。管理職・各分掌部長・サポートの先生方の応援があり少しは混乱も解消したかと思う。両日の参加者は高等学校258組、中学校11組であった。（前年高等学校394組、中学校24組）

## ⑤特筆すべき点

高校入試も決して楽観視できない状況である。共学とアクセスと制服とに助けられて集まっているといっても過言ではない。専願者の減少傾向（特にパワー、英数）、広報のあり方を再度、検討しなければならない。

今後は、以前実施していた管理職との本部への挨拶回りを実施していきたい。

## ⑥入試関係

中学校への実力テストの基準は、すべてのコース、専願・併願とも昨年と変更していない。また、五ツ木書房の模擬試験においても、一番受験生が多い第6回（11月実施）で上宮高等学校を志望校に入れている生徒が、専願257名、併願1,075名、合計1,332名（前年、専願271名、併願1,095

名、合計 1,366 名) と専願で 14 名減少し、合計では 34 名の減少が見られた。

受験者は、昨年よりも微増だが、ここ数年の受験者を見てみると 2019 年度入試では 2,200 名以上受験していたが、じりじりと減少してきている。全般的な少子化の影響もあるが、受験生（特に専願希望者）を増加させる方策を考えなければならない。

### iii. 進路関係

#### 1. 大学等進学状況の概況

令和 4 年度卒業生（共学 10 期生）は 625 名（昨年度 549 名）。学年全体の現役合格率（大学・短期大学・専門学校合格）は 96.8%（昨年 94.9%、一昨年 94.3%）で 6 年連続の上昇。

#### 2. 令和 5 年度入学入試を取り巻く環境について

##### 1) 一昨年度より大学入試改革による大学入試区分の名称変更

ただし、私学では名称が混在して使用されることもある。

①AO 入試 ⇒ 総合型選抜

②推薦入試 ⇒ 学校推薦型選抜

（スポーツ推薦入試・連携指定校制推薦入試・公募制推薦入試）

③一般入試 ⇒ 一般選抜

④「評定平均値」⇒「学習成績の状況」に呼称変更

##### 2) コロナウイルス感染拡大の大学入試などへの影響

①昨年に続き、年内入試（推薦入試）の志願者増で高止まり。

②本校では「連携・指定校制推薦入試」での出願が 50% 台から 40% 台に減少。

##### 3) 18 歳人口が減少するなか、私立大学では、「補欠からの繰り上げ合格」および「追加合格」の増加を抑えるため、合格者数を増加させ全体的に易化。結果的に、本校の私立大学合格者も維持または増加した。（4 の 2 表）

例：「関西大学」：複数回の繰り上げ合格を発表。

2/27 に第 1 回目 731 人、3/25 に第 2 回目 160 人の繰り上げ合格発表

（昨年 2/27 1,350 人、3/25 20 人）

「近畿大学」：複数回の繰り上げ合格・追加合格を発表

2/24 に第 1 回目 258 人、3/18 に第 2 回目 60 人の繰り上げ合格発表

（昨年 2/24 706 人、3/19 372 人）

等、「補欠からの繰り上げ合格」「追加合格」が昨年に続き減少傾向にある。

#### 3. 本校の令和 4 年度卒業生の最終の進学先の状況

令和 4 年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
625	569	6	27	3	20
割合	91.0%	1.0%	4.3%	0.5%	3.2%

\* 「就職者」内訳：公務員(2)、一般企業

令和3年度卒業生の最終進学等状況					
卒業生	4年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
549	482	10	19	1	37
割合	87.8%	1.8%	3.5%	0.2%	6.7%

\*「就職者」内訳：公務員

\*「その他」は進学準備・留学準備等（大学等に合格したが入学しなかった生徒も含む）

#### 4. 大学別合格者について

1) 国公立大学合格者 28名（昨年度 30名） \*現役・過年度生を合わせた大学別実人数

【令和2年度～令和4年度の国公立大学合格状況 過年度比較】

国公立大学合格者								
令和4年度			令和3年度			令和2年度		
(卒業生数 625名)			(卒業生数 549名)			(卒業生数 637名)		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	和歌山大	4	1	和歌山大	7	1	和歌山大	5
	大阪教育大	4	2	大阪公立大	5		大阪教育大	5
3	大阪公立大	3	3	神戸大	2	2	三重大	3
4	神戸大	2		和歌山大県立医大	2		大阪府立大	3
	鳥取大	2		徳島大	2	5	大阪市立大	2
	神戸市立外国語大	2	6	大阪大	1		奈良県立大	2
7	京都工芸繊維大	1		京都教育大	1	7	帯広畜産大（獣医）	1
	奈良教育大	1		大阪教育大	1		滋賀大	1
	奈良県立医大	1		奈良教育大	1		信州大	1
	奈良県立大 等	1		奈良県立医大 等	1		愛媛大 等	1
	合計実人数	28		合計実人数	30		合計実人数	35
	うち現役実人数	22		うち現役実人数	26		うち現役実人数	29
	国公立型クラス現役生数	120		国公立型クラス現役生数	126		国公立型クラス現役生数	148

①国立大 21名（うち現役 17名） ②公立大 7名（うち現役 5名）

2) 私立4年制大学 大学別合格者実人数 839名 (うち現役 785名) 卒業生 625名

\* (昨年度 715名 うち現役 662名) 卒業生 549名

【令和2年度～令和4年度の私立大学現役合格者 Best20 過年度比較】

私立大学現役合格者 * 現役生のみで大学別合格実人数で比較								
令和4年度			令和3年度			令和2年度		
卒業生数 625名			卒業生数 549名			卒業生数 637名		
1	近畿大	99人	1	近畿大	75人	1	近畿大	79人
2	龍谷大	70	2	摂南大	63	2	摂南大	61
3	関西大	62	3	龍谷大	53	3	関西大	46
4	摂南大	51	4	関西大	51	4	龍谷大	53
5	追手門学院大	48	5	大阪工大	32	5	大阪工業大	28
6	桃山学院大	29		追手門学院大	32	6	桃山学院大	27
7	大阪経大	25	7	桃山学院大	22	7	京都産業大	22
8	同志社大	23	8	同志社大	20	8	神戸学院大	19
	武庫川女子大	23	9	武庫川女子大	18	9	立命館大	18
10	関西外大	21	10	甲南大	16	10	同志社大	17
11	大阪工大	20	11	京都産業大	15		甲南大	17
12	京都産業大	18	11	畿央大	15	12	追手門学院大	16
13	立命館大	17	13	大阪電気通信大	14	13	大阪芸術大	15
14	関西学院大	16	14	大和大	12		甲南女子大	15
15	大和大	14	15	大阪経大	11		武庫川女子大	15
	畿央大	14		関西外大	11	16	大阪経済大	14
	神戸学院大	14	17	立命館大	10	17	同志社女子大	12
18	同志社女子大	13		京都女子大	10		佛教大	12
	甲南大	13	19	関西学院大	9		大阪電気通信大	12
20	京都女子大	11	20	同志社女子大	8		関西外国語大	12
	阪南大 等	11		大阪産大 等	8	21	関西学院大 等	11
	合計実人数	785		合計実人数	662		合計実人数	737
	卒業生数	625		卒業生数	549		卒業生数	637

参考：連携・指定校制推薦入試「被推薦者」数の推移

年度	共学	合計	%	文系	%	理系	%
R4	10期	203	42.1	149	37.5	54	63.5
R3	9期	213	53.1	130	52.2	83	54.6
R2	8期	229	50.2	151	50.2	78	50.3
H31	7期	180	35.9	138	36.0	42	35.6
H30	6期	193	39.3	137	40.2	56	37.3
H29	5期	154	30.3				
H28	4期	126	24.6				

H27	3期	157	28.9				
H26	2期	160	32.4				
H25	1期	204	29.8				

\*%はプレップ・6ヵ年プレップの合計在籍人数に対する割合。

3) 私立短期大学合格者 11名 (うち現役11名)

私立短期大学合格者 *合格者であり進学者ではない		
令和4年度	令和3年度	令和2年度
11	17	16
うち現役11	15	13

4) 専門学校合格者 30名 (うち現役28名)

専門学校合格者 *合格者であり進学者ではない		
令和4年度	令和3年度	令和2年度
30	22	41
うち現役28	20	39

5. 進学・勉学に関する進路指導部の主な事業報告

\*本年度も、あらゆる事業が「新型コロナウイルス感染拡大」の影響を受けた。

- 1) ①河合塾「全統模試」は、公開会場での受験が出来るようになったが、公開会場と校内実施では受験料が大きく異なる等の理由により、一部の実施回を国公立コース担当者によって校内での実施となった。  
 ②高校各学年の「進路オリエンテーション」「進路説明会」等は状況により全クラス講堂や、一部クラスを講堂、残りはライブ配信し教室での視聴とした。(保護者も同様)  
 ③主な連携大学の指定校制推薦入試の「夏期必修プログラム」が昨年同様、中止となった。また一部の大学はオンラインで実施した。
- 2) 卒業生執筆による「合格体験記—後輩につなぐ言葉—」を発刊。高1・高2・高3生の進路HR等の教材として活用した。
- 3) 放課後の学習支援事業「Uゼミ」が開講9年目となった。本年度は、1年を通じて予定通り実施した。ただ、コロナ関連の出席停止等により受講できなかった講座の受講料は返金による対応となった。
- 4) Uゼミの「英検合格講座」は中1から高3までの希望者を対象として、土曜日放課後に通年で3期に分けて開講した。
- 5) 「オンライン英会話」は事業者を「(株)ノバホールディングス」に変更し2年目となり、中1から高3までの希望者を対象として、前期35名、後期20名の生徒が受講した。
- 6) 「夏期講座」は前期7/27~30、後期8/1~4で実施した。昨年度、予想を大きく超える受講希望者が出た

め、多くの講座で抽選となった。本年度は総講座数を増やし、人気講座は同じ内容のものを複数用意するなどの対応を行った。その結果、抽選をすることなく実施できた。

7) 「連携・指定校制推薦入試」に合格の高3生徒に、本年度は以下のプログラムを実施した。

① 「連携大学の先生による入学前特別講義」

連携協定を締結している甲南大学経済学部の教授2名による「大学での学びについての講義」と「レポートの書き方の実践演習と添削指導」を2日間の午前中で実施した。

② 「Global Studies Program」

昨年度実施の「エンパワーメントプログラム」と内容面での変更はないが、事業者都合により名称が「グローバルスタディーズプログラム」と変更された。本年度は令和5年2月にAグループ13日～15日、Bグループ20日～22日の日程で実施。参加生徒215名をAグループ108名、Bグループ107名に分け、更にもその中で会場を2か所に分けた。Aグループ15ヵ国18名、Bグループ14ヵ国18名の国際学生と、外国人ファシリテーター2名が来校して、本校生徒の指導にあたった。

本年度も新型コロナウイルス感染拡大を防止するために、以下の配慮を講じて実施した。

- ・「ホームステイ」受け入れの中止。
- ・生徒は毎朝の検温を欠かさず、当日に体温が37.5℃を超えた時など体調が優れない場合は無理に登校しない。
- ・マスクは必ず飛沫防止効果の高い「不織布製マスク」を着用させる。
- ・会場での講師と生徒、また生徒同士の座席を適度に空け距離をとった。
- ・手指消毒用に出入口、および各グループの机ごとに消毒液ボトルを設置。
- ・文房具・ドアノブ・机等の消毒。
- ・定期的に会場の換気。

また、グローバルスタディーズプログラムのスタッフについても、

- ・国際学生（留学生）は元々日本の大学に留学している国内在住の学生から選抜。
- ・近隣の府県の国際学生を優先的に手配する。
- ・プログラム開始前3週間以内に渡航歴がないこと。
- ・プログラムの開始2週間前から毎朝の検温を義務付け、うち2日以上微熱（37.5℃以上）があれば不参加とし、メンバーの交代を行う。
- ・マスクの着用。毎日の検温の実施。手指消毒・うがいの励行を指導。
- ・グループワークでは距離を十分に保ち、握手、ハイタッチ、ハグは禁止する。
- ・食事中における本校生徒との交流は禁止し、講師控室の自席で食べてもらう。

等の感染対策と指導を徹底して実施した。

### 3.上宮学園中学校

#### 【基本データ】

生徒数（年初数）

1年生 107名、3クラス、

2年生 107名、3クラス、

3年生 109名、3クラス、

合計 323名、9クラス、男子 221名、女子 102名、男女比 68：32

転退学者等

1年生 転学者 1名(男子 1名)

2年生 転学者 1名(男子 1名)

3年生 転学者 1名(男子 1名)

転入者 0名

教員数

合計 31名

専任教諭 14名、常勤教諭 7名、常勤講師 2名、非常勤講師 8名

#### i. 教務関係

(1) 学校評価の総括から ( ) 内は自己評価

- ① 日々の行事運営 (B)
- ② 教務係との業務の連携、運営 (B)
- ③ 教員間の情報の共有・連携 (A)
- ④ 中高教務の連携 (B)
- ⑤ 会議や連絡会について (B)
- ⑥ 教務会の円滑な進行について (A)
- ⑦ 六カ年を見据えた教育の充実 (B)
- ⑧ 校外学習及び総合学習の充実と積極的な取り組み (A)
- ⑨ 上宮学園中学入試の実施と諸問題の検討 (B)
- ⑩ 保護者会との協力 (C)
- ⑪ 部活動の充実に繋がる取り組み (B)

(2) 祖山参拝、芸術鑑賞

- ① 中1は祖山参拝を実施(4月)。
- ② 全学年が梅田芸術劇場へ宝塚歌劇団「オデッセイ」を鑑賞(7月)。

(3) 中3国内研修旅行

今年度も、コロナ禍のため、国内研修旅行に変更した。

国内研修旅行は岡山県、広島県、香川県で実施した(7月)。

(4) スキー実習

昨年まで中止となっていたスキー実習は、中1、中2の全員が、志賀高原スキー場にて3泊4日で実施することができた(2月)。

(5) 体育大会

昨年までの2年間、エディオンアリーナにて学年別で実施していた。今年度、会場は同じであるが、久しぶりの全学年そろっての実施となった(11月)

(6) 上記以外の行事

各学年主導の校外学習

1年：『司馬遼太郎記念館』(東大阪市) 見学及び清掃活動(5月)。

『自然史博物館』(大阪市、長居公園)と『人と防災未来センター』(神戸市)での研修をそれぞれ実施(12月)。

冒険教育(神戸鈴蘭台スカイアドベンチャー、日帰り)は中止。

近大英語村は新型コロナウイルス感染の影響のため中止。

2年：『キッザニア甲子園(西宮市)』(6月)。

思春期教室を実施。本来は病院(バルナバ)へ行き実施していたが、コロナの影響があり、病院から学校へ講師が出張していただき、講堂で行った(10月)。

近大英語村は新型コロナウイルス感染の影響のため中止。

3年：『グローバル体験』(ECC英語学院)をクラス別で実施(9月)。

『ナガシマスパーランド』(三重県)での自由研修実施(3月)。

ii 広報 ※志願者数には欠試者も含まれます。

① \*2023年度入試結果

1次(一般学力午前・適性検査・自己アピール・一般学力午後)2次(一般学力2次)の全体で  
志願者数 488名 受験者数 464名 合格者数 402名 入学者数 131名

【内訳】

1次 一般学力午前	：志願者数 124名	入学者数 94名
1次 一般学力午後	：志願者数 157名	入学者数 8名
2次 一般学力2次	：志願者数 156名	入学者数 18名
適性検査	：志願者数 49名	入学者数 7名
自己アピール	：志願者数 2名	入学者数 1名
「コロナ・インフルエンザによる追試」		受験生 3名

\*前年度(2022年度)入試結果

1次・2次一般学力型、適性検査型、自己アピール型の全体で、  
志願者数 380名 受験者数 362名 合格者数 317名 入学者数 107名

【内訳】

1次 一般学力午前	：志願者数 103名	入学者数 76名
1次 一般学力午後	：志願者数 132名	入学者数 14名
2次 一般学力2次	：志願者数 132名	入学者数 16名
適性検査	：志願者数 13名	入学者数 1名





◎ソフトテニス部

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| ・全国中学校ソフトテニス大会出場 | 団体戦ベスト 8    |
| ・個人戦             | 1 ペアがベスト 16 |

◎卓球部

- |                     |              |
|---------------------|--------------|
| ・第 53 回 全国中学校卓球大会出場 | 団体戦 ベスト 16   |
| ・全日本卓球選手権大会出場       | カデットの部 1 名出場 |
|                     | ジュニアの部 1 名出場 |

◎柔道部

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| ・第 53 回 全国中学校柔道大会出場 | 団体戦 ベスト 16 |
|---------------------|------------|

◎弓道部

- |  |         |
|--|---------|
| ・第 19 回全国中学生弓道大会<br>(JOC ジュニアオリンピック大会) | 女子団体戦出場 |
|--|---------|

◎ソフトボール部

- ・第 22 回全日本中学生男女ソフトボール大会出場

○総括

依然、コロナウイルスの影響を受けた令和 4 年度であったが、今までよりは学校行事を進めることができたと思われる。今年度も募集人数を大きく超える（131 名）新入生が入学してくれた。うれしいことに女子生徒は年々増加し、今年度は 37% に達し、クラスに在籍する女子生徒の割合も多くなった。

コロナウイルスの影響が残る中でも保護者説明会を実施できたことは良かった。しかし、授業参観は実施できなかった点が心残りであり、来年度は是非実施したいと思っている。

昨年に続いて海外研修旅行に代わる国内研修旅行や 1・2 年合同スキー実習、芸術鑑賞、そして大切な祖山参拝は実施することができた。これらを実施することで、生徒たちには、今までのコロナウイルスの影響を受けた日々とは違う学校生活を送ってもらえたのではと思っている。令和 5 年度は工夫しながら行事を行い、学校行事の充実を考えていきたいと考えている。

学習面において、英語科が中心となり、ネイティブ授業、英語暗唱大会、英検の年 3 回の校内実施など、着実に生徒の英語能力が上がっており、緩やかではあるが成績面で現れてきている。英語だけでなく、生徒の学力がますます向上するよう、有効な施策を考えていかなければならないと強く感じている。

#### 4. 上宮太子高等学校

##### i 執行部関係

校 長	寺澤 久弥	生徒指導部長	尾山 友昭
教 頭	淵 昭嘉	進路指導部長	福田 和憲
教務部長	田中 良和	入試対策部長	佐々木哲也

##### 【基礎データ】

###### 生徒数(年初数)

1年生	197名	6クラス	クラス平均生徒数	32.8名
2年生	154名	4クラス	クラス平均生徒数	38.5名
3年生	179名	5クラス	クラス平均生徒数	35.8名
合 計	530名	15クラス	男子 313名	女子 217名 男女比 59:41

###### 転退学者等

1年生	退学者8名(男子5名・女子3名)	うち転学者6名(男子3名・女子3名)
2年生	退学者6名(男子2名・女子4名)	うち転学者5名(男子1名・女子4名)
3年生	退学者3名(男子2名・女子1名)	
合 計	退学者17名(男子9名・女子8名)	うち転学者11名(男子4名・女子7名)

※昨年度比+13名 全生徒に対する割合は3.2%

###### 教職員数

合 計	67名
専任教諭	21名(校長、教頭含) 常勤教諭 9名 有期常勤教諭 3名 非常勤講師 23名
派遣講師	3名 事務職員 3名(事務長含) 非常勤嘱託事務職 3名 非常勤嘱託職員 2名

##### ii 広報関係

###### ① 学校説明会等行事

行事名	実施日	参加組数	増減
UTフェスタⅠ(オープンキャンパス)	8月27日(土)	115組	-1組
UTフェスタⅡ(オープンキャンパス)	9月17日(土)	133組	+19組
UTフェスタⅢ(オープンキャンパス)	10月22日(土)	130組	-8組
第1回入試説明会	10月2日(日)	39組	-19組
第2回入試説明会	11月3日(祝水)	91組	+6組
第3回入試説明会	12月3日(土)	191組	+28組
直前対策入試説明会	12月11日(日)	241組	+71組
合 計		940組	+96組

※入試説明会はオンライン参加組数を含みます。

## ○総評

・UTフェスタ(オープンキャンパス)については、昨年同様に実施を3回とし、1回目の実施時期を8月に早めて、クラブ体験及び授業体験が出来る機会を設けた。保護者対象のプチ説明会では、公立高校・私立高校を比較した内容で、保護者から好評を得た。各クラブが趣向を凝らした内容を企画し、本校の様子を知ってもらう入試イベントとしては良かったと思われる。

・コロナ禍においての説明会であったが、内容においては、各教科からの説明も創意工夫がなされて充実したものといえる。学校見学では、在校生の協力を得て、「学校見学ツアー」を実施した。特に生徒会生徒やクラブ生、有志のボランティア生徒の協力のもと、参加者と在校生との関わりを深め、説明会でも生徒の生の声を届ける等上宮太子の魅力を伝えるように努めた。受験生や保護者の反応が良く、説明会等の継続率が上がった。

・全ての入試関連のイベントにおいては、感染予防を最善に留意し、実施回数を増やすことやオンライン配信等、社会情勢に応じた形での実施となった。その甲斐があって全体としては参加者人数が増加傾向にある。また生徒・教職員の丁寧な対応で参加者の満足度は高いと思われる。

## ○今後について

- ・オープンキャンパスは昨年同様に3回実施をし、本校に来校し、在校生及び教職員と関わる機会を作る。
- ・内容については、年々充実したものになっている。今後、より生徒を全面に押し出せるような工夫を凝らしたい。
- ・様々なイベント案内をSNSツール(Web、インスタ等)の活用により、参加組数を増やす工夫をしていきたい。
- ・1学期中に本校のクラブ活動を認知・体験してもらうため、6月に「クラブ体験会」の実施を予定している。

## ② 塾対象説明会・中学校対象説明会

	実施日	参加塾数	増減
塾対象入試説明会	9月8日(木)	65塾	+12塾

※オンライン参加塾を含みます。

## ○総評

- ・塾対象説明会では、上宮太子を御最前にしてくださる塾の参加が多くなる為、参加者の雰囲気は良いものであった。今年度は従来までの1学期開催から、2学期開催に時期を変更した。コロナ対策として、多目的教室の密を避けるために参加人数を60名までに制限し、オンラインでの中継も行った。説明会の内容としても本校の売りである生徒の様子を紹介しやすいので、その分でも好評であった。
- ・参加された先生方に対してアンケートを実施し、説明会の内容や学校に対するご意見を多数頂戴した。満足度は高く、今後も上宮太子を勧めたいとの意見が多かった。

○今後について

- ・参加された先生方からの意見として「生徒や学校の様子を見たい」との声が多いので、授業との兼ね合いも調整しながら生徒をうまく登場させる内容や授業見学等を今後、盛り込んでいきたい。
- ・実施時期については、学園の状況や受験市場の情勢を鑑み、臨機に対応していく。
- ・3年に1度の割合で参加塾の裾野を広げるためにホテルやホールにて実施している。参加塾数を考えるとホテルやホールでの実施が望ましいので、今後も状況に応じて実施場所を検討していきたい。

③ 私学展

	実施日	参加塾数	増 減
私学展	8月13日(土)～14日(日)	131組	+82組

○総評

- ・今年度についても、コロナ禍ということで制限があったが、昨年の上の2倍以上の人がブースに訪れてくれた。2ブースで対応したが、手が回らず途中で帰られたケースもあった。
- ・私学展はブースの見た目が影響することもあるので、IPADで常に映像を流して目に止まるようにした。女子の制服がとても人気で、ミニチュアを見て足が止まる生徒も多いので、目立つところに置いてアピールした。説明については、ブースに座ってくれた保護者・生徒がそれぞれ学校に対して何を望んでいるのかという気持ちを察して、それにこたえることで心をつかみ、学校見学やオープンに来てもらえるようにした。

○今後について

- ・パンフレットや DATABOOK での説明方法、押さえるべきポイントを明確にして、太子の良さをアピールする。個々の経験や、クラブでの様子等の話で保護者・生徒の気持ちを惹きつけ、保護者には安心して子供を預けられるよう、生徒には楽しそうだから一度見に行ってみようと思わせるようにする。
- ・せっかく並んでくれた方を待たせないようにするため、別室に1ブースを借りて対応する。

### iii 進路関係

#### 【現役大学合格者数】

卒業生数が2名減少。全体の合格数は12減少。ただ、昨年度26増加しており、ほぼ現状維持と言える。  
今年度のべ508(卒業生数176名)、昨年度のべ520(卒業生数178名)

#### ○国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格数が1増加した。

国公立大学合格者数:今年度19(現役17・過年度2)うち、国立大13(現役11・過年度1)  
昨年度18(現役17・過年度1)うち、国立大12(現役11・過年度1)

今年の卒業生は、国公立大合格数は特進コースの人数の半数に満たなかったものの、関西の国立大(奈良女子・和歌山)や地方基幹大(広島・信州・金沢)などに合格者を出しており、おおむね満足できる結果であったと言える。

#### ○私立大学(関西8私大)

昨年度入試と比較して、関関同立の合格数は14増加、産近甲龍の合格数は18増加した。その結果、関西8私大合わせた合格数は32増加した。特に同志社大、龍谷大の合格数の増加は大きく、合計の合格数で100名を突破した一昨年度からわずか2年でさらに大幅に増加した。過去10年で最高の結果である。私大入試については、今年度初めて卒業生を出した特進Ⅱ類コースの健闘や、前年度に続いて意図的に上位層の生徒に意欲的な受験を促した結果、公募制・一般入試共に健闘してくれた事が要因であろう。

#### 関西8私大合格者数

今年度155名(関西17・関西学院4・同志社7・立命館5・京産18・近畿70・龍谷31・甲南3)  
昨年度123名(関西13・関西学院4・同志社1・立命館1・京産12・近畿73・龍谷19)  
一昨年度108名(関西5・関西学院4・立命館3・京産4・近畿85・龍谷7)

#### ○33期生の進学状況(卒業生数176名)

4年制(6年制)大学進学者数…155名 短期大学・短期大学部進学者数…5名  
専門学校進学者数…11名 各種学校進学者数…1名 就職準備…1名  
進路未決定…3名

(内訳:総合進学文系1名、特進Ⅱ類理系1名、特進Ⅰ類理系1名)

※特進Ⅰ類の1名は、関西大に合格したが国公立大に再挑戦中)

現役合格率98.9%(昨年度98.8%)、現役進学率98.3%(昨年度97.7%)

連携・指定校推薦入試枠757名分のうち、受験者数45名(総合進学・特進Ⅱ類コース在籍者の32.3%)

※昨年度と比較して、連携・指定校推薦入試利用者(受験者)数は増加。コロナ禍の受験という不安要素などで、「年内で進学先を決めたい」という全国的な傾向が本校にも現れている。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠757名分中、利用者(受験者)数は37名(総合進学コース在籍者の25.0%)

特進Ⅱ類コース在籍生徒のうち、

- 5名(実数)が同志社大学大学に一般選抜で合格
- 4名(実数)が関西大学に一般選抜で合格
- 4名(実数)が関西学院大学に一般選抜で合格
- 1名(実数)が立命館大学に一般選抜で合格
- 32名(実数)が近畿大学に学校推薦型(公募制)・一般選抜で合格
- 18名(実数)が龍谷大学に学校推薦型(公募制)・一般選抜で合格
- 2名(実数)が甲南大学に学校推薦型(公募制)で合格
- 1名(実数)が京都産業大学に一般選抜で合格

総合進学コース在籍生徒のうち、

- 2名(実数)が龍谷大学に一般選抜で合格。
- 1名(実数)が甲南大学に一般選抜で合格。
- 1名(実数)が京都産業大学に学校推薦型(公募制)で合格。

(昨年度実績)総合進学コース在籍生徒のうち、

- 4名(実数)が京都産業大学に学校推薦型(公募制)・一般選抜・スポーツ推薦で合格。
- 3名(実数)が近畿大学に学校推薦型(公募制)・一般選抜で合格。
- 2名(実数)が龍谷大学に一般選抜で合格。

#### 【進路指導方針】

入学当初より、進路指導LHRや総合的な探究の時間を通して、大学・学部・学科について調べ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースや特進Ⅱ類の生徒にも、公募制推薦入試や一般入試にどんどんチャレンジし、第一志望の大学進学をめざすように指導している。

また、今年度よりは、今まで教員側のスキルアップのシステム構築を大きなテーマとした。新課程への対応や若手教員の授業改善、また、進路指導部と教科・学年との連携を密にする点に意識して取り組んできた。生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来を見据えた取り組みを、今後も継続していきたいと考えている。

#### ○次年度取り組む内容(重点目標)

- ・全コースの基礎学力向上(atama+模試の有効活用)、教科・学年との連携強化
- ・家庭学習の推進(スタディサプリの活用促進)
- ・模試の事前・事後指導
- ・教科会議の時間を利用した教員内研修の活性化による、教員の意識改革および授業改善

■上宮太子高等学校 令和5年度入試 大学合格者数一覧(卒業生数176名)

【確定版】

国公立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
国立大学						
奈良女子大	1	1	0	0	1	1
和歌山大	1	1	1	1	2	2
信州大	1	1	0	0	1	1
広島大	1	1	0	0	1	1
金沢大	1	1	0	0	1	1
香川大	1	1	0	0	1	1
徳島大	1	1	0	0	1	1
島根大	2	2	0	0	2	2
山口大	1	1	0	0	1	1
北見工大	3	3	0	0	3	3
国立大計	13	13	1	1	14	14
公立大学						
奈良県立大	0	0	1	1	1	1
公立鳥取環境大	2	2	0	0	2	2
香川保健医療大	1	1	0	0	1	1
三重短期大学	1	1	0	0	1	1
公立大計	4	4	1	1	5	5
国公立大計	17	17	2	2	19	19

関西圏 主要私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
関関同立						
関西大	17	14	0	0	17	14
関西学院大	4	2	0	0	4	2
同志社大	5	2	2	1	7	3
立命館大	4	3	1	1	5	4
関関同立計	30	21	3	2	33	23
産近甲龍						
京都産業大	18	6	0	0	18	6
近畿大	66	21	4	2	70	23
甲南大	3	2	0	0	3	2
龍谷大	31	14	0	0	31	14
産近甲龍計	118	43	4	2	122	45

私立短期大学						
短期大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
白鳳短	1	1	0	0	1	1
短期大学計	1	1	0	0	1	1

専門学校等						
専門学校等名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
近大付属看護専	1	1	0	0	1	1
南大阪看護専	1	1	0	0	1	1
その他専門学校等	9	9	4	3	13	12
専門学校等計	11	11	4	3	15	14

私立大学						
大学名	現役		過年度		合計	
	のべ	実数	のべ	実数	のべ	実数
その他の私立大学						
法政大	0	0	1	1	1	1
神戸薬科大	1	1	0	0	1	1
関西外国語大	22	10	0	0	22	10
大阪経済大	6	5	0	0	6	5
大阪工業大	11	6	0	0	11	6
佛教大	1	1	0	0	1	1
畿央大	22	4	0	0	22	4
摂南大	83	33	0	0	83	33
神戸学院大	4	4	0	0	4	4
追手門学院大	30	15	0	0	30	15
桃山学院大	4	3	0	0	4	3
大和大	1	1	0	0	1	1
武庫川女子大	5	4	0	0	5	4
甲南女子大	11	4	0	0	11	4
神戸女学院大	4	4	0	0	4	4
神戸松蔭女子大	1	1	0	0	1	1
園田学園女子大	1	1	0	0	1	1
森ノ宮医療大	4	2	0	0	4	2
大阪歯大	1	1	0	0	1	1
大阪物療大	2	2	0	0	2	2
藍野大	2	2	0	0	2	2
大阪芸術大	1	1	0	0	1	1
京都芸術大	1	1	0	0	1	1
京都美術工芸大	1	1	0	0	1	1
京都先端科学大	1	1	0	0	1	1
京都橋大	1	1	0	0	1	1
天理大	1	1	0	0	1	1
帝塚山大	13	5	0	0	13	5
大阪産業大	19	7	0	0	19	7
大阪電気通信大	11	7	0	0	11	7
大阪商大	1	1	0	0	1	1
大阪大谷大	2	2	0	0	2	2
四天王寺大	14	10	0	0	14	10
阪南大	48	9	0	0	48	9
大阪学院大	5	2	0	0	5	2
羽衣国際大	1	1	0	0	1	1
千里金蘭大	1	1	0	0	1	1
関西福祉科学大	4	2	0	0	4	2
大阪人間科学大	1	1	0	0	1	1
第一工大	0	0	2	1	2	1
東海大	0	0	1	1	1	1
崇城大	0	0	1	1	1	1
その他の私立大学計	342	158	5	4	347	162
私立大学計	491	223	12	8	503	231



iv 入試関係

	コース	募集人員	専・併	志願者数		受験者数		合格者数		手続者数		
1次	特進Ⅰ類	約35	専願	男子 9	16名	男子 9	16名	男子 8	14名	男子 8	14名	
				女子 7		女子 7		女子 6		女子 6		
			併願	男子 81	172名	男子 77	165名	男子 69	146名	男子 8	12名	男子 8
				女子 91		女子 88		女子 77		女子 4		
	特進Ⅱ類	約35	専願	男子 17	25名	男子 17	25名	男子 15	23名	男子 15	23名	
				女子 8		女子 8		女子 8		女子 8		
			併願	男子 73	129名	男子 71	125名	男子 68(3)	126名	男子 9	14名	男子 9
				女子 56		女子 54		女子 58(5)		廻し8名含む		女子 5
	総合進学	約105	専願	男子 51	80名	男子 51	80名	男子 54(3)	84名	男子 54(3)	84名	
				女子 29		女子 29		女子 30(1)		廻し4名含む		女子 30(1)
			併願	男子 70	136名	男子 69	133名	男子 78(10)	149名	男子 7(2)	10名	男子 7(2)
				女子 66		女子 64		女子 71(7)		廻し17名含む		女子 3

●令和4年度入学生(35期生) 197名(男子 116名・女子 81名)

※上宮学園中学2名を含む(特進Ⅰ類 1名・総合進学 1名)

【3年間の受験者数】

☆2021

	専願	併願
特Ⅰ	18	189
特Ⅱ	38	89
総合	65	87
計	123	377
	500	

☆2022

	専願	併願
特Ⅰ	11	141
特Ⅱ	39	110
総合	114	117
計	164	368
	532	

☆2023

	専願	併願
特Ⅰ	16	165
特Ⅱ	26	125
総合	80	133
計	122	423
	545	

【入試方法の変更「高得点科目重視型」】

全コース【専願】受験者に、当日の受験科目のうち最も高得点の科目の配点を高くする「高得点科目重視型」の入試方法を採用します。自分の得意科目を活かすことができる。

<特進Ⅰ類・特進Ⅱ類> ⇒ 受験科目(5教科)のうち最も高得点の科目を2倍にし、

5教科合計600点満点を500点満点に換算して合否判定を行う。

<総合進学> ⇒ 受験科目(3教科)のうち最も高得点の科目を2倍にし、理科・社会の評定点数化(各50点)を加えた5教科合計を500点満点に換算して合否判定を行う

「英語・みなし点制度」⇒ 全コース【専願・併願】受験者に、英語については、「英語検定」3級以上の合格者を対象に「みなし点制度」を採用します。入学試験当日の得点と比較し、高い方の得点を採用する。

#### ○入試関係総評

・2023年度入試に於いては、総合進学コースの受験教科が3パターンの選択制になったことも影響して、昨年度と比べて外部説明会に参加してくれた組数が105組増え、校内におけるオープンキャンパス・入試説明会に参加してくれた組数も47組増え、五ツ木模試に於いても上宮太子を専願で書いてくれた生徒数も増え、学校見学者数も19組増えた。上宮太子に関心を示してくれている保護者・生徒・中学、塾の先生方の数は増えている。

しかし、結果は志願者数が1増加して、専願者数が49減少となった。

・専願者数の減少の理由として考えられることに対する検証①～⑤

① 昨年の電気・ガス料金、食品の値上げ等が家計費に影響して公立志向が高まった？

各中学とも、私学専願率に若干の増減はあっても、影響を受けて全体的に低くなったわけではない。

② 公立人気が出てきた？

通学しやすい、行事が楽しい、諸経費が安いなどについては例年のことで変わりはない。

公立高校の倍率を見ても、大きな変化は見られない。

夕陽丘(1.19)・阿倍野(1.40)・東住吉(1.22)・阪南(1.22)・布施(1.28)・山本(1.21)

八尾(1.41)・大塚(1.08)・河南(1.02)・富田林(1.12)・金剛(0.98)・懐風館(0.69)

長野(0.82)・藤井寺(1.18)・狭山(1.18)・榎原(1.15)・畝傍(1.06)・桜井(1.19)

香芝(1.19)

③ 他の私学に流れた？

近隣に於いては、関西福祉科学大学が270募集で専願322集めており、阪南大学が440募集で専願368集め、初芝立命館が立命館コースで120募集で143集めていた。この3校は専願率が高かった。

四天王寺東は175募集で専願83、初芝富田林は157募集で専願61と苦戦していた。

④ 公立中学における中3生の在籍人数が減少した？

昨年度から今年度においての地域ごとの生徒数の増減

八尾(+51)、柏原(+52)、松原(-75)、藤井寺(+80)、羽曳野(+5)、富田林(-14)、

河内長野(+40)、狭山(-22)、南河内郡(+22)、桜井(+7)、田原本(-17)、榎原(+2)

大和高田(-11)、御所(+9)、香芝(+18)、葛城(-32) +115となっている

⑤ 通信制に人気が出てきた？

各中学に於いて、不登校生がかなり増えている。N・S校、ルネサンス大阪(専願640)が人気。

結論は、①～⑤について、複合的要素が全体的に少しずつ影響を起こし、各中学からの専願者数が減少した。

令和5年度入試に対する地域ごとの総括（入試対策部）

地域	総括	今後について
大阪市	主にクラブ関係が多い。オープンや説明会後に関わってからなので話は進めやすい。専願の可能性が高いので、成績をしっかり見ておくことが必要。クラブ生でも一般と同じ入試で、入学後も他の生徒と同じで進学についてもスポーツ推薦だけでなく幅広い進路選択ができる指導が響いている。大規模校にはできない太子の教育について、先生・保護者・生徒に理解をしてもらっている。	一本釣りが可能な地域。学校の選択肢が多い中、なぜ上宮太子を選んでいるのかを聞いておくことが大事。
南河内郡	町立中は、歩いて通える地元の中学なので一番専願者を増やさないといけない。今年度は町立の私学専願率が50%に対して、太子に対する受験生は増えたが専願者が伸びなかった。先生方は太子の良さを分かってくれているが、公立なので生徒に直接勧めれない。我々がどう保護者・生徒にアプローチをかけるかが問題。河南町立・千早赤坂の生徒は、都会の学校より面倒見の良い太子を好み、保護者も安心して送れることから多くの受験生がいる。	喜志や三郷のような体験授業を勧めているがなかなか動かない。保護者説明会やクラス単位でも出張説明できることをもっとアピールする。クラブ関係からもプッシュしてもらおう。学校施設を利用してもらう。 地域に対する特権を作る。太子町立出身の生徒を集めて太子をどう感じていたかリサーチする。
富田林	南海側の地域は経済的に豊かである。外環を超えることより南海で大阪に向かう生徒が多い。自転車で通える地域があるにもかかわらず、私学専願者はしんどい自転車で通いたがらない。 近鉄側は中間層が多く、高校では大学進学より楽しむことを考えて選ぶ。不登校生も最近かなり増えている。進路の先生方には、太子に対してかなり好印象を与えている感じがあるので入りやすさをアピールすればまだまだ増える。	明治池の校長より、クラブで地域の行事に参加して欲しいという依頼があった。このような機会を利用して太子の名前を外に出していく。 公立との差を出して、河南・金剛・長野ではできない説明会を開催する。
羽曳野	塾の先生曰く、富田林と比べると経済的に豊かで保護者も前向きで教育に熱心な家庭が多い。 公立受験は南にいかず、夕陽・東住吉・大塚・山本・生野が人気となっている。私立はバラバラ。自転車通学も可能なのでまだまだ増える要素はある。	各中学の校長・進路には太子のことを理解してもらっているが学年担当者まで伝わっていないので、太子の魅力を現場に伝えるリーフや案内を考える。
藤井寺	塾・中学共に上宮太子の成績帯は私立専願希望。保護者の意識も高く説明会等にもよく参加している。早い段階から動いている生徒も多いので、前半のイベントで興味を持った生徒が入試前に駆け込んでいる。中学の先生からは評価を得ている	イベントで先につかんだ生徒をもう一度振り返らせる説明会や特典が必要。飽きさせないイベント展開が求められる。沿線も利便性があり、重点的に回るためにも管理職の先生にアプローチしてもらおうのも一つ。

<p>松原</p>	<p>中学ごとで専願・併願率が分かれている。公立志向が根強いことや大阪市内に行きやすいので南部へ向かう生徒層は低い。</p> <p>しかし、イベント参加で気に入ってくれる生徒も多いので可能性はある。成績が厳しいので塾からは「生徒獲得したいならラインをもう少し下げたら増えるのでは」と言われる</p>	<p>進学実績より学校生活の充実の方が伝わる。総合進学の需要はある。総合でも入試の成績が300点以上の生徒がいるので特進の可能性も見極めて勧めていく。</p>
<p>狭山</p>	<p>狭山南は受験生が0であった。南海線であるのと、塾へのアプローチが少なかったのが原因と思われる。狭山と第3中は受験生がいるが、近くには語学研修にも力を入れている狭山高校があるので、そこよりも良いところをアピールしなければいけない。</p>	<p>南中の地域では一本釣りしかないので、塾がポイントになる。ラインをしっかり案内することが大事。狭山・第3は金剛バス乗り場に近く、受験生が必ずいるので、学校に来てもらい魅力を伝えて獲得していく。</p>
<p>柏原</p>	<p>塾では評価が高いが、中学は上宮太子に対する意識が低い。しかし、国分・高井田のバス発車は大きな要因となる。都会の学校・大規模校に多く流れるというより、落ち着いた環境で丁寧に教育を受けたいような雰囲気のある地域。八尾の公立高校が落ち着いてきており、八尾翠翔、山本お名前をよく聞く。</p> <p>今後公立高校との差別化が必要。太子希望者の成績は比較的高い。</p>	<p>特待生徒を引っ張りやすい地域。新規塾もあり、丁寧な教育を求める地域より太子には有利である。バスの乗降所がわかりにくいとの指摘もあるので看板の設置も必要。広告としても活用したい。</p>
<p>河内長野</p>	<p>昨年度より専願者が減少したが、各中学の私立専願者数は増加傾向にある。千代田中の専願者は減少、東中からは専願4名</p> <p>長野中から昨年度は体験、見学、教育相談が全くなかったが今年度はオープン参加が多かった。たまたま専願希望が少なくなったと中学の先生は言っている。</p>	<p>在校生からの意見が後輩たちに伝わるので、良い意見が先輩から伝わるよう工夫する必要がある。学校見学、オープンに積極的に参加してもらい太子の良さをアピールすることが重要。</p>
<p>堺市</p>	<p>クラブ希望の生徒が専願でくる傾向がある。各中学からは「太子の立地条件・通学の不便さではなく、自宅から最寄りの駅まで快適に行けるかが大切。できるだけPRをしてオープンなどに参加してもらえれば徐々に生徒数が増える」と言われた</p>	<p>高校生活を太子で新たにスタートしたいと考える生徒がいるようなので、こまめに渉外を重ねていくことが重要。</p>
<p>堺市美原区</p>	<p>さきつ野中学は環境的に太子と共通点が多く、人気ではあるが、生徒数が少なく、入学に繋がりにくかった。他は認知度はあるが通学の面で便利さが無い印象が強い。</p>	<p>太子の良さをこまめに伝えることが大事かと思われる。</p>
<p>生駒郡</p>	<p>三郷中の生徒数は増加傾向。中学の先生からは進学実績がいいという認識がある。出前授業や高校体験イベントにも協力できているので生徒は一定数受験している。あまり成績が高くない地域と聞いているが、挨拶もでき明るい生徒が多い。活発に活動している様子がうかがえる。</p>	<p>高校体験企画は中2生だが、中3になったらオープンなどのイベントに行きたいと塾からは言われる。中2生へのアプローチは面白いと感じた。早く生徒の意識を高めるために受験生前倒しイベントも必要かも。</p>

生駒市	生駒中学の進路中西先生は長く進路に携わっているので指摘も独特で勉強になる話も多い。なかなか本人が希望しな限り太子の名前は出てこない。	体験に来てもらうことからスタート。イベントの押しが必要だった。ただ、遠いので情報をもらいにいくスタンスでいいと感じた。イベント参加者がいれば情報をしっかり把握して話をしていく。
大和郡 山	片桐中学や郡山西中学は通いやすいと感じる。併願の受験生はいるが、専願になっていない。	専願者は厳しい地域と感じた。併願者は増やせる可能性があるので進学実績などを勧めていく。イベントに参加してもらい太子を知ってもらうことが必要。
橿原 御所 大淀 吉野	専願者は減少。全体的に私学専願者数が減ったわけではない。上宮OBの光陽中学堀川先生によると、担任間で太子の良さを伝えようとしてもあまり聞いてもらえない。しかし、オープンなどに生徒が積極的に参加しているので、何とかPRできる機会を設けたいと言ってくれている。	奈良は公立志向ではあるが、塾からは、これからは私学希望の生徒も徐々に増えるようで、決め手は「安心して学校生活が過ごせる、進路保障の充実」だそう。
香芝市	いちばん専願者を確保しなければならない地域であるが、減らしてしまった。説明会やオープンキャンパス等では好印象を持ってもらっていたので、経済的な不安感が大きいかもしれない。	公立志向が多い奈良県にあって、比較的専願が期待できる地域であるので、他校より早く太子に気を向かせることで確保に繋がるのではないかと。
桜井市	公立志向が強く、更に私学を考える場合も県北部に目がいつている。「北へ上る、南へ下る」という古いイメージが根強い。	併願で選ぶ公立に行くのと太子とでは出口の部分で差が出ることを強調したい。電車を乗り換えなく通学できるので、その点も強調していくことが大事。
磯城郡	桜井市と同様の傾向がある。更に電車通学を考えたとき、乗り換えが必要な部分で不便という印象の強い。	併願で選ぶ公立に行くのと太子とでは出口の部分で差が出ることを強調したい。スクールバスが国分から出ているので通学は便利である点も強調していくことが大事。
北葛城 郡	一部を除いて生徒数の減少が激しい地域である。専願確保は難しい。	学校(先生)によって太子に理解があるので、一本釣りに近い形で集めることが必要か。塾の力を借りることも非常に重要である。
葛城市	専願者を確保しなければならない地域であるが、減らしてしまった。説明会やオープンキャンパス等では好印象を持ってもらっていたので、経済的な不安感が大きいかもしれない。	太子の魅力をいかに伝えるか、その一点につきると思われる。

## ○今後について

- ・中学訪問において、上宮太子の学校紹介VTRをCDにして持参し、生徒たちに見て頂くようお願いする。特に送ってくれた高1生たちの元気そうな写真も持参し、廊下に掲示してもらい後輩たちがいつでも見れるようにする。  
塾も含めて、訪問では目的意識を明確にして、送ってくれた生徒の日々の様子や、定期考査等の成績について詳細に伝えることで、送ってくれた生徒たちをきっちり見ていることをアピールする。3学期には、送ってくれた生徒たちの進学先を伝えることで、安心して上宮太子を勧めてもらえるようにする。
- ・校外で知り得た情報を定期的に校内の先生方へ伝え情報の共有化を徹底する。
- ・外部説明会では、広報費に限りがあるが、できるだけ多くの説明会に参加させてもらい、保護者には、上宮太子での生活面や進路指導面についての面倒見の良さをアピールし、安心して預けてもらえるようにする。生徒には、上宮太子での高校生活の楽しさや、充実した行事や取り組み、豊富な指定校数をアピールすることで興味を持ってもらい、学校見学やオープンキャンパス、入試説明会に来てもらえるように勧める。特にオープンキャンパスは集客力がある。早い段階で上宮太子を意識してもらい、良さを知って受験まで繋がるようにするために、1学期に第1回オープンキャンパス(クラブ体験)を実施する。
- ・オープンキャンパスに来た生徒に対して、クラブ生からのお礼の手紙や、体験の様子を写真に撮って(個人情報には考慮する)後日送ることができたら、上宮太子をもっと身近に感じてくれると思われるので教務・生徒会と連携して企画をする。  
1回参加して終わりではなく、次に繋がるように工夫が必要。その繰り返しで受験にも繋がっていく。
- ・中学や塾では、学校および教室ごとに保護者・生徒対象の説明会を開催したり、新たに説明会や、出張授業や学校見学を開催するところもある。その中には是非とも上宮太子を呼んでももらえるようお願いをする。話だけではなかなかイメージがつかず、忘れられてしまうので、具体的にこんな事が出来ますといったリーフを持っていくことが必要。先生の授業だけでなく、クラブとしてもこんな事ができますよと伝える。
- ・昨年同様に、土曜日の Zoom による online 説明会を開催し、申込者にはできるだけ電話をして、学校訪問に切り替えてもらえるよう勧める。学校見学に来た生徒の60%以上が入試に結びついているので、何とか足を運んでもらえるよう働きかける。
- ・高校生の様子を、中学生はインスタやYouTubeなどでよく見ている。スマホをどう利用すれば効率的に学校の良さを届けることが出来るかを考える。
- ・上宮太子に興味を持ってもらうためには、効果的な広報物が必要である。HP、パンフレット、リーフレットなどを広報と連携して制作し募集活動に有効利用する。

#### v 施設等整備関係

- ・校舎本館の外壁補修・屋上防水工事(2期分/4期)
- ・体育館外壁塗装、窓枠の一部をリニューアル。
- ・特別棟系統埋設水道配管リニューアル。
- ・本館棟警備員室の移設工事。

#### iv 教務関係

##### ① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月末までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言をいただく形で実施した。

授業アンケートについては、11月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。

##### ② 高大連携

###### ○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪樟蔭女子大学の5大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また、近畿大学経済学部にて、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

###### ○今後について

いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ本校としても長期間に渡り、責任ある関係を保つことができる大学に絞って今後の高大連携を考えていく。

##### ③ 教職員研修会

今年度は外部講師を招いての教職員研修会は実施出来ていない。ただ、校内研修として、7月にICT教育推進室が中心となり、GoogleClassroom等のICT教育の教授法に関する校内研修を行い、全教員が研鑽を積んだ。また12月には、ブレーションアカデミーより「承認カード」を用いた研修の機会を設けた。

#### ④ 特筆すべき行事

##### 【海外語学研修】

新型コロナウイルス感染拡大を受け、全ての海外語学研修は中止となった。例年であれば以下の語学研修を実施している。

<イギリス語学研修(ACEプログラム)>7月下旬~8月上旬 対象:1~3年生 希望制

資格あり、国際感覚の習得、プレゼンテーション

スキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。参加資格は英検2級1次試験合格以上。基準にクリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加者には10時間以上のネイティブ講習会等を実施する。

<カナダ語学研修>7月下旬~8月中旬 対象:1~3年生 希望制

自然豊かな風土と治安の良さ、また教育水準の高さから注目が高いカナダは、英語だけでなくフランス語も公用語として使用されているため、欧米の2つの雰囲気の中で異文化を体験できる語学研修である。

<ニュージーランド ターム留学>7月下旬~9月下旬 対象:1~3年生 希望者

9週間の海外滞在を通して、親元を離れ、現地校での授業はもちろん、世界をより深く知る機会になると同時に、日本や自分自身のことについても改めて考えることが出来る素晴らしい機会となることを目的としている。

<ニュージーランド語学研修>3月下旬~4月上旬 対象:1~2年生 希望者

##### 【修学旅行】

第2年生の修学旅行はコロナ禍で予断を許さない中ではあったが、12月3日(土)~7日(水)の4泊5日の行程で北海道方面(札幌・小樽・旭川)+関東方面(都内・東京ディズニーランド・鎌倉)への修学旅行を無事に実施できた。

##### 【聖徳書道展】

令和4年度で第15回の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町、太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、令和4年度は約4000点の応募作品を得た。今年度は密を避ける為に、会場を体育館に変更し、従来通りの「書のパフォーマンス」「表彰式」も行った。10月2日(日)の1日型で開催し、653名(昨年比-5名)の参加があった。



## vii 課外活動関係

### ① 課外活動のあり方について

運動部：11、文化部：10(令和5年3月現在)

約8割の生徒がクラブに所属(77.9%)し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切に、礼儀や挨拶等を含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化もねらいとしている。

### ② 部活動の主な成績

#### 書道部

「第56回記念高野山競書大会」<高野山管長賞>三嶋 柚心(3年)

<毎日新聞社賞>森 楓花(3年)、小西 康太(2年)

<全日本書道連盟賞>吉田彩乃(2年)

「第31回国際高校生選抜書展」<入選>三嶋 柚心(3年)、森 楓花(3年)

尾山 歩香(2年)、小西 康太(2年)

#### 総合探究部

「第46回大阪府高等学校総合文化祭囲碁部門 大阪府予選 男子個人戦」第3位 神鳥 鷹太(3年)

「第46回大阪府中・高等学校将棋選手権大会 個人戦 B 級」準優勝 神鳥 鷹太(3年)

「第42回 NHK 杯争奪 大阪府中・高等学校将棋選手権大会 個人戦 B 級」第3位 羽田遼太郎(1年)

「第43回大阪府高等学校芸術文化祭囲碁部門 個人戦 C クラス(ハンデ戦)」優勝 羽田遼太郎(1年)

「第40回大阪府高等学校囲碁新人大会 ハンデ戦」準優勝 神鳥 鷹太(3年)、羽田遼太郎(1年)

上野 彰大(1年)、加古 朋也(1年)

#### 吹奏楽・コーラス部

「第32回 管弦打楽器ソロコンテスト大阪狭山大会」予選 金賞 前田 梨名(1年)、池田 瑞月(1年)

本選 銀賞 前田 梨名(1年)

#### 美術部

「第71回大阪私学美術展 イラスト部門」奨励賞

#### 硬式野球部

「秋季近畿地区高等学校野球大会 大阪府予選」ベスト16

#### サッカー部

「高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ OSAKA 4部 中河内・南河内ブロック 上位 C グループ」7位

#### バレーボール部

「春季大会1次予選」2部残留 3位

## viii 防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低2日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供等、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

(備蓄品内容 一人分)

エマージョンクッキー2日分    おいしいごはん2日分    飲料水500ml2本  
簡易トイレカプセル5回分    小箱

## ix その他

- ①今年度の体育大会は5月に、生徒のみで実施をした。(外来者の入場は禁止)コロナ禍での初めての実施となり密回避のため、グラウンドに椅子を持ち出し、間隔を空けて並べる。行進・召集はなし、各競技の時短、手指消毒等、コロナの感染予防に留意した上での実施となった。  
上宮祭(文化祭)は、昨年同様フェニーチェ塚にて、文化部の発表に加え、チーム対抗(1・2年)で映像を作成し、各学年の1位を決めた。体育大会および上宮祭での合計得点で、今年度の総合優勝を決めた。

- ②生徒を主体とした委員会活動の推進を行っている。

(令和4年度の活動実績)

保健委員会・整美委員会 昼休み・放課後の消毒作業、消毒のよびかけ

風紀委員会 登校時のあいさつ運動

新聞委員会 上宮太子ニュースの原稿執筆

放送委員会 昼休みの放送・式典時のZoom等の機器操作

図書委員会 図書室の運営(貸し借り手続き、図書整理など)